

いとし子へ

たとえ見えてはいなくても
あなたの眼は光を集め
わたしの姿を映してくれる
まなざしてくれている
たとえ手足を動かさなくても
あなたの心臓は動いていて
わたしたちの体温は通い合う
熱がめぐるのを感じる
たとえきこえていなくても 声はなくても
あなたには響きがあつてリズムがあつて
わたしたちは音を超え言葉を超えて
共鳴し合えるのだと思う
ただ居てくれることそれだけで
もの言わぬままわたしを照らしあたためる
まばゆいほどのあなたは光
うれしくてうれしくて
悲しいことさえうれしくて
痛みさえ光と思えたの
あなたなしにはない思い
いとしい子いとしくていとしくて
涙こぼれてしまいそう
涙もあなたのくれたもの
生きていてただひたすらに
無為のまま生きていて
なんてとうといあなたと思う